Tokyo Kasei University

今井 夏子 IMAI Natsuko

児童学部 初等教育学科　特任講師

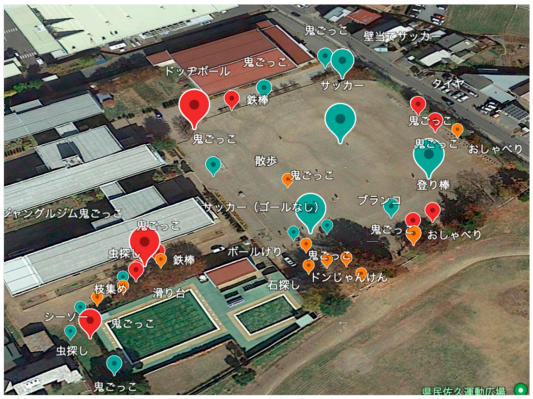
子どもの屋外遊びの実態とその関連要因に関する研究

キーワード　子ども，屋外遊び，観察，身体活動

研究内容

近年，活動量の低下が懸念されており，対策の検討が急務とされています．そのような中，小学校の休み時間は子どもたちが体を動かすことのできる数少ない機会です．しかしながら子どもたちが休み時間にどの程度で遊んでいるのかは明らかにされていません．

我々の研究グループでは，直接観察法や身体活動量測定，質問票調査，インタビュー調査といった量的･質的測定項目を用いて，休み時間の子どもの外遊びの実態やその背景要因を明らかにする研究を行っています．さらにそれらの結果を踏まえて，子どもたちが自然と体を動かして遊ぶことのできる環境づくりの効果検証といった介入研究も進めています．



子どもが校庭のどこでどのような遊びをしているか可視化した「遊び場マップ」

関係論文，特許・著作物等の知財情報，連携の実績

- Risky Play and Social Behaviors among Japanese Preschoolers: Direct Observation Method. International Journal of Environmental Research and Public Health 19(13) 7889-7889, 2022.
- 幼児期の「リスキープレイ」が学びの土台をつくる，体育科教育，2022.
- 親子参加型スポーツイベントに参加する保護者の背景要因に関する検討，フューチャーアスレティックス研究 (11)，2024
- 2024 年度スポーツ振興センター研究助成「小学校の休み時間における怪我の「見える化」調査 - 怪我×遊び場 map を用いて -」(研究代表者)

社会連携・産学連携の可能性

これまで幼稚園・小学校などの教育現場との連携に加え，遊具会社やスポーツクラブとの共同研究において研究視点からみた遊びの効果に関する提案をしてきました．体を動かす活動の効果検証などの共同研究が可能です．